

令和5年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■ 調査概要

助成団体	福岡県福岡市
事業細目名	国際競技大会開催事業
事業名	世界水泳選手権 2023 福岡大会開催（R5 年度）
助成金額	1,000,000,000 円

■ 調査内容

令和5年度国際競技大会開催助成を受け、「世界水泳選手権 2023 福岡大会」を開催した福岡県福岡市の調査を実施しました。

世界水泳選手権 2023 福岡大会は、2023年7月14日（金）から7月30日（日）の17日間に渡り、6種別75種目（競泳、飛込、ハイダイビング、水球、アーティスティックスイミング、オープンウォータースイミング）が実施されました。新型コロナウイルス感染症の影響により2回の延期を経て開催された本大会には、世界の約200か国・地域から約2,400人のトップ選手が参加しました。種別により会場は4か所に分かれており、この内3か所は本大会のためにプールと客席が仮設会場として建設されていました。大会開催にあたっては、世界水泳連盟（IF）から要請される会場の国際基準を満たすことや、延期による仮設施設の解体・資材の一時保管等、苦労も多かったといえます。大会直前に会場近くの駐車場に構えられた国際放送センターからは、一拠点からIFの映像を全種別編集して全世界に配信し、重要な役割を担っていました。

調査当日は競泳の「男子200m バタフライ」や「混合4×100m メドレーリレー」の決勝等が実施され、平日の夜でも集まった多くの観客から、各国の選手に大きな声援が送られていました。中でも日本人選手が登場した際には予選、決勝関係なく、会場は一層盛り上がりを見せていました。常設プールより観客席が近い会場では、メダルを獲得した選手と最前列の観客がハイタッチをして触れ合う光景も見られ、無観客ではなく、延期してでも有観客で開催した意義が感じられました。また、選手が試合前後に訪れる選手ラウンジでは、浴衣や折り紙の体験コーナーを設ける等、大会コンセプトの一部であるアスリートファーストや福岡大会ならではの魅力の発信を実現した工夫が各所で見られました。

本大会が福岡市においてのスポーツ振興の一助となると共に、本大会を成功させることで、福岡市が国際規模の大会を開催できる我が国のスポーツ都市の一つとして、より世界での発信力が高まることを願っています。

（令和5年7月26日往訪）

(写真) 福岡世界水泳の様子

